

平成 27 年度 八戸市公共事業再評価シート

平成 27 年 7 月 27 日

27-	担当部署	都市整備部 公園緑地課 公園整備グループ(内線4813)				
事務事業名	館鼻公園整備事業					
再評価実施要件	5年未着工	長期継続(年)	再評価後(5年)	その他()		

1 事業の概要

総合計画の 施策の体系	分野	5.安全・安心なまちづくり						
	大施策	5-4.居住環境の整備						
	中施策	1.快適でおいしいのある市街地の形成						
	小施策	公園・緑地の整備						
	事業	都市公園整備事業(館鼻公園の整備)						
採択年度	平成 8年度	用地着手年度	平成 8年度	工事着手年度	平成 13年度			
終了年度	平成28年度	平成25年3月工期変更 (変更前の終了年度 平成24年度)						
事業目的	<p>当該公園は、湊村との合併により市に引き継がれた面積5,700㎡の土地に、主に児童の利用を目的として昭和39年に開設され、長い間地域住民の憩いの場として利用されてきた。その一方で八戸港が一望できる見晴らしの良さから、海が見える丘の公園として多くの人々から知られるところとなり、平成8年に老朽化による再整備を機に観光地としての利用も視野に入れた公園として整備を進めている。</p> <p>展望塔「グレットタワーみなと」は平成19年4月のオープン以降、市の新たな観光スポットとして多数の市民や観光客が訪れていることから、来園者の利便をさらに図っていくために、区域を拡張し大型観光バス対応の駐車場や休憩所を整備して来たところである。</p> <p>今後については、隣接する旧八戸測候所の無人化(平成19年10月)に伴い、その跡地や建物を活用して地域コミュニティの場、東日本大震災の津波被害や湊地域の文化・歴史を伝える学習の場、また、避難所等の防災機能を備えた体験学習施設として整備を進める予定である。</p>							
事業内容	事業内容				事業方法 財源負担	国庫補助事業		
	ゾーン名	主な施設	計画面積(ha)	供用面積(ha)		県補助事業		
	日和山広場	展望塔、駐車場、記念碑、トイレ、体験学習施設	0.42	0.32		市単独事業		
	桜の杜広場	見晴台、四阿、ベンチ	0.45	0.45				
	たてはなの丘	漁夫のとおりで、月見のデッキ	0.15	0.15				
	夕日のテラス	3連パーゴラ、縁台	0.06	0.06				
	西のスポット	シェルター、ベンチ	0.05	0.05				
	南のスポット	シェルター、ベンチ	0.02	0.02				
	プレイロット	遊戯施設(滑り台他7基)	0.06	0.06		国(50%)		
	上の自由広場	ベンチ、広場	0.13	0.13		県(%)		
	下の自由広場	ベンチ、軽運動器具(7基)	0.06	0.06		市(50%)		
	川辺の広場	水辺のデッキ、駐車場	0.46	0.46				
	憩いの広場	休憩所	0.04	0.04				
	計					1.90	1.80	
事業費	当初計画総事業費 703,000 千円 再評価時総事業費 1,404,000 千円 単位:百万円							
		~23年度	24年度	25年度	26年度	小計	残事業 (27年度~)	合計
	当初計画	703.0				703.0		703.0
	(うち用地費)	(267.0)	()	()	()	(267.0)	()	(267.0)
	平成8年12月採択							
現計画	920.0	5.0	0.5	150.0	1,075.5	328.5	1,404.0	
(うち用地費)	(270.0)	(0.0)	(0.5)	(150.0)	(420.5)	(0.0)	(420.5)	
平成25年3月変更								
実績	920.0	0.0	0.5	103.0	1,023.5	380.50	1,404.0	
(うち用地費)	(270.0)	(0.0)	(0.5)	(103.0)	(373.5)	(0.00)	(373.5)	

2 項目別評価

(1) 事業の進捗に関する視点

(A) ・ B ・ C

進捗率		計画全体に対する進捗		当初計画に対する進捗	
	事業費割合	72.90%	[/]	145.59%	[/]
	(うち用地費)	(88.82%)	[/]	(139.89%)	[/]
整備状況	項目	当初計画	現計画	整備状況	
	整備区域面積(ha)	1.3	1.9	1.8	
事業の進捗に関する説明	平成27年度現在の事業進捗率は約73%に達している。 今後は、旧八戸測候所庁舎を体験学習施設への改修や外構工事を含む周辺整備を予定している。				

(2) 事業の必要性等に関する視点

(A) ・ B ・ C

必要性に関する説明	当初計画時	昭和39年の公園開設から年月が経過し公園施設の老朽化が進み、再整備が必要となった。 当該公園は海に面した高台にあり、公園からの眺望が優れていること、また、沿岸部の津波からの避難地となっていることから、より多くの市民が利用できる市民憩いの場と災害時の避難地の確保が必要となった。
	現在	当市の一人当たりの公園面積は10.30㎡(平成26年度末現在)で県内平均17.42㎡と比較しても低い水準にあり、「八戸市緑の基本計画」における目標値16.00㎡(平成35年度)の達成には当公園の整備が必要不可欠である。 東日本大震災の際には沿岸部の住民約200名が避難しており、災害時の屋内避難所、防災備蓄倉庫等の更なる防災機能の強化が求められている。 八戸の海や街並みが一望できる公園として市民の認知度が高まるとともに、県内外からの観光客も含め、グレットタワーの入館者だけでも、年間5～6万人が訪れる一大観光スポットとなっていることから、海に近い立地特性を活かした施設の充実は多くの来園者に望まれている。
その他特記事項	平成21年8月に隣接する旧八戸測候所の跡地や建物を活用した公園整備について、「湊地区連合町内会」「湊地区再生まちづくり促進協議会」の連名で約5千人の署名を添えて要望書が提出されている。 「湊地区連合町内会」及び「湊地区再生まちづくり促進協議会」から、毎年整備進捗状況等について説明を求められており、早期完成及び施設の拡充について強く要望されている。 平成25年に地域住民を対象として、旧八戸測候所の利活用に関するアンケートを実施したところ、短期間の実施期間に関わらず2千人を超える住民から回答が寄せられ、施設整備に対する関心の高さが窺えた。 平成26年6月議会 (質問)旧八戸測候所庁舎の利活用の見通しについて (回答)今年度に庁舎改修設計等を実施し次年度以降に工事着手を予定している。	

(3) 事業の投資効果に関する視点

A ・ (B) ・ C

事業効果等	評価指標	再評価時	再々評価時	増減	参考値																																																												
	費用便益比()	3.85	3.10																																																														
<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">内訳</td> <td colspan="4" style="text-align: right;">単位: 百万円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">区分</td> <td style="text-align: center;">主な項目</td> <td style="text-align: center;">再評価時</td> <td style="text-align: center;">再々評価時</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center;">費用項目</td> <td>施設費</td> <td style="text-align: right;">764.0</td> <td style="text-align: right;">1,257.0</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>用地費</td> <td style="text-align: right;">332.0</td> <td style="text-align: right;">533.0</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>維持管理費</td> <td style="text-align: right;">239.0</td> <td style="text-align: right;">327.0</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>総費用</td> <td style="text-align: right;">1,335.0</td> <td style="text-align: right;">2,117.0</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center;">便益項目</td> <td>利用価値</td> <td style="text-align: right;">1,176.0</td> <td style="text-align: right;">1,450.0</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>環境価値</td> <td style="text-align: right;">1,569.0</td> <td style="text-align: right;">2,064.0</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>防災価値</td> <td style="text-align: right;">2,394.0</td> <td style="text-align: right;">3,041.0</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>総便益</td> <td style="text-align: right;">5,139.0</td> <td style="text-align: right;">6,555.0</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">B / C</td> <td style="text-align: center;">3.85</td> <td style="text-align: center;">3.10</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table>						内訳		単位: 百万円				区分	主な項目	再評価時	再々評価時			費用項目	施設費	764.0	1,257.0			用地費	332.0	533.0			維持管理費	239.0	327.0			総費用	1,335.0	2,117.0			便益項目	利用価値	1,176.0	1,450.0			環境価値	1,569.0	2,064.0			防災価値	2,394.0	3,041.0			総便益	5,139.0	6,555.0			B / C		3.85	3.10		
内訳		単位: 百万円																																																															
区分	主な項目	再評価時	再々評価時																																																														
費用項目	施設費	764.0	1,257.0																																																														
	用地費	332.0	533.0																																																														
	維持管理費	239.0	327.0																																																														
	総費用	1,335.0	2,117.0																																																														
便益項目	利用価値	1,176.0	1,450.0																																																														
	環境価値	1,569.0	2,064.0																																																														
	防災価値	2,394.0	3,041.0																																																														
	総便益	5,139.0	6,555.0																																																														
B / C		3.85	3.10																																																														
費用便益分析手法	改訂第1版 小規模公園費用対効果分析手法マニュアル(平成19年6月 社団法人日本公園緑地協会編集・発行、国土交通省都市・地域整備局公園緑地課監修)に基づく。																																																																
特記事項																																																																	

(4) 事業のコスト縮減等に関する視点

(A) ・ B ・ C

コスト縮減対策の実施状況	○現況の地形や樹木を活かした公園づくり。 ○土留め等の既存施設の再利用。 ○岩盤掘削で発生した岩石の一部を景観材料として活用。 ○旧測候所庁舎の活用
事業代替案の可能性	○今後進める事業は、公園固有の立地特性を活かしながら既存施設の改修(再整備)を進めるものであるため、代替案は無い。

(5) 環境影響への視点

(A) ・ B ・ C

配慮手法	建築設計段階で省資源、省エネルギーを推進	建築機械、工事車両には低騒音、低振動、低排出ガスの機械を使用
	建築設計段階で太陽光発電システム、その他再生可能エネルギーの導入	建設副産物のリサイクル推進
	施設の緑化	廃棄物の分別処分
	再生資源の使用	:実施 ×:未実施 -:対象外

3 総合評価

(1) 対応方針(案)

総合評価	継続	計画変更	休止	中止	
理由	館鼻公園は地域住民の憩いの場としてだけでなく、海に近い高台という立地特性を活かした「みなと八戸」のシンボルとなるものであり、また災害時における避難場所として重要な役割も担っている。 展望塔オープン後は、市の新たな観光スポットとして主要な観光ルートに組み込まれる等、観光面への効果が大きく、今後予定する体験学習施設の整備による、立地特性を活かしたさらなる施設の充実が、観光客のみならず多数の市民から望まれているものである。 また、館鼻公園は八戸市地域防災計画の一時避難地であり、想定される災害への備えとして防災機能を強化することは、地域住民の願いでもあり、安全・安心なまちづくりの実現に寄与するものである。よって事業継続としたい。				

(2) 行政改革委員会意見

委員会評価	継続	計画変更	休止	中止	
附帯意見理由等	特に無し。				

(3) 対応方針(決定)

総合評価	継続	計画変更	休止	中止	
理由	対応方針(案)に示したとおり事業継続とする。				